

意識が変わるとき

2 箇月くらい前に映画「県庁の星」がテレビで放映されたのを見ました。印象的であったのが、織田裕二扮する主人公が県議会で「行政改革は組織や制度を変えることじゃない。そこに生きる人間たちの意識を変えることなのだ。」と発言する場面です。行政改革を担当している身としては、このセリフにうなずきながらも、「それが簡単にできないんだよね…」と思ってしまいました。意識が変わるには、どんな環境が必要なのでしょう。



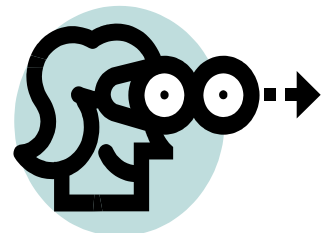
阪 神タイガースの金本選手は今年1月の読売新聞の記事で、「常に見られている、という意識を持つことが大事。(中略)プレーヤーもファンに見られてうまくなる。へたなプレーを見せられないと思えば、練習にも身が入ります。」と答えていました。また、シアトル・マリナーズのイチロー選手は、常に「イチロー」というブランドを意識して行動していることが映像や取材の文章から感じ取れます。

流のプロは、日常生活も含め、常に見られていて、また、意見を言われる環境にあります。ここに身を置くことにより、「見られている」という意識を自然に持つことになり、その中で「どのように見られているか」、そして、プロとして「このように見られたい」という意識が芽生えてくるのでしょう。

行政のプロである公務員も同じではないでしょうか。公務員は社会的にも注目される状況

にありますし、また、当然に上司、部下、同僚などから見られています。また、三浦市の取組としては、行革の大綱である「行政革命戦略 5つの宣言」において、「まるはだか宣言」をして、「是非知ってください」という姿勢で行政の透明化を進めています。市の業績目標やその達成状況、予算編成過程などをホームページで公開したり、市民対話集会「みうらトーク&トーク」を開催するなど一昔前に比べ、見られる環境は整備されつつあると言えるでしょう。

— のような環境に置かれている中で、自らが「常に見られている」ということを感じ取ったときに意識が変わるのだと思います。一個人としてどう見られたいか、行政のプロとしてどう見られたいか、そして三浦市はどう見られるべきかということを一一人が考えるようになることで、行革が進み、三浦市というブランド強化に結び付いていくのではないのでしょうか。



行 革担当として、「意識を変えよう。」などと切々と説くよりも、「見られる」、「意見を言われる」環境整備を粛々と進めることが実は効果的だったりするのかもしれない。併せて、意識が変わり成果をあげた者に対しては、現在、管理職に対して本格実施を始めている人事考課制度をはじめとした、きちんと評価する仕組みの整備も必要となるでしょう。

(政策経営課 矢尾板昌克)

暴論オピニオン

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

「少数精鋭」の本質とは

選りすぐりの優れた人財による小集団をよく「少数精鋭」というが、現場の経験論からいうとそうではなく、「少数にすると精鋭化する」と考える方がよい。ある経営コンサルタントから聞いた話だ。

いま三浦市では業務改善方策を検討する一環として「稼働率分析」を行っている。最終的に調査結果がまとまっているわけではないが、三浦市役所の稼働率は65%程度とのことである。35%は“ムダ”な時間になっているということだ。もちろん、“ムダ”とされる時間の中にはトイレに行くとか、ほんの少し休憩する、リフレッシュするとかの時間も含まれているので、常識的に許される範囲での“ムダの効用”を考慮すると、実際にはそのすべてが無用な時間ということにはならない。しかし、それでもあえて“ムダ、無用”の時間であるとみなして改善に取り組むべきなのだそう。

この35%に相当する職員を削減したとしても稼働率がちょうど100%になるということではなく、やはり多少の“ムダの効用”ないし“(ハンドル操作でいう)あそび”に相当する余裕時間は生まれてくる。

なぜかという、少数化することにより一人ひとりの稼働が高まって全体としてより高効率になるからである。こうした見解の根拠は、担い手が多ければ多いほど「誰かがやってくれる」意識が働くためムダが生まれやすいが、少なれば少ないほど「複数のことを同時に自分がやらなければならない」意識や「少しでも楽になれるよう工夫をしなくては」といった意識が働くため高効率になる、ということらしい。実はそれでもまだ足りない。いま経営は、複数のことをこなせる「多能工」から、何でもこなせる「万能工」を求めている。それがあってこそその効率化、業務改善なのである。

市役所は多業種・多職種で構成された組織なので、そのような考え方ですべての職場が一律に高効率化できるとは言い難い。しかし、それぞれの職場にあった効率化方策をなかば無理矢理にでも捻り出す環境をつくるという意味では、「少数にすると精鋭化する」という考え方はきわめて有効な仮説かもしれない。

次号(第15号)は10月18日発行です。

「ぼっこすこせえる」とは…

神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。



三浦市長の吉田ひでおです。9月6日から7日にかけて関東地方を直撃した台風9号による被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。さて、災害時、市の職員はいち早く現場に駆けつけて対応にあたることになっています。先日の台風9号でも6日午後5時には災害対策本部移行直前体制を敷き、危機管理課をはじめとする関係部職員は夜を徹しての情報収集、警戒あるいは出動にあたりました。自治体職員なんだから当然だろう、と言ってしまうとその通りでしょうが、職員にも家族があります。家族の心配をしながらも自宅を離れて災害対応をするというのは相当重い使命です。市長として、こうした職員の働きに対して心から慰労したいと思います。それと同時に、災害のときにかぎらず、市民の生命と財産を守るという使命を日々の業務においても常に思い起こしてほしいと思います。